



No.4-1  
近畿地方整備局  
事業評価監視委員会  
平成29年度第4回

# 新宮川総合水系環境整備事業

【再評価】

平成29年10月  
近畿地方整備局

# 目次

1. 事業の概要
2. 事業の必要性等に関する視点
3. 事業の進捗の見込みの視点
4. 関係自治体の意見等
5. 対応方針(原案)

## □流域の概要

- ・熊野川(水系名:新宮川水系、河川名:熊野川)は、その源を奈良県吉野郡天川村の山上ヶ岳(標高1,719m)に発し、途中、北山川と合流し熊野灘に注ぐ、流域面積2,360km<sup>2</sup>、幹線流路延長183km、流域内人口約5万人の一級河川である。
- ・流域の歴史は古く、宗教文化の中心地として知られ、特に熊野川下流域の熊野本宮大社から熊野速玉大社の間は、世界に類を見ない世界遺産「川の参詣道」に指定されている他、歴史的資源が多数存在する。



熊野川流域の諸元

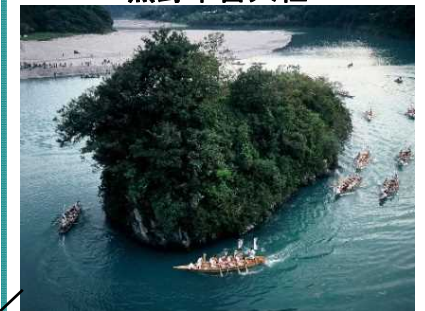
項目	諸元
流域面積	2,360km <sup>2</sup>
幹線流路延長	183km
流域内人口	約5万人
流域内市町村	5市3町6村



新宮川水系



熊野本宮大社



熊野川で営まれる御船祭



熊野速玉大社



熊野川下流部(平成29年1月撮影)



## ■事業の目的

水質の改善及び地域と連携した水辺整備による河川利用の推進。

## ■事業概要

新宮川水系熊野川における環境整備事業は、これまで3箇所で行った。

### ○水環境整備事業

＜市田川浄化事業＞ H19完了

・熊野川支川市田川、その上流の浮島川及び「浮島の森」の水質改善。

### ○水辺整備事業

＜新宮川水辺プラザ＞ H13完了

・水際部の文化資源を保全し、地域の交流拠点となるような「にぎわいのある水辺」の創出。

＜池田港地区かわまちづくり＞ H30年度供用開始予定

・熊野古道(川の参詣道)とまちなかの歴史資源をつないだ水辺の利用推進。

## ■整備状況

### ・事業期間

平成3年度～平成34年度

### ・全体事業費

約37億円

### ・整備内容

#### 【整備済】

水環境整備 1箇所(浚渫・導水路)

水辺整備 2箇所(低水護岸)





## 水辺の整備に係る事業(池田港地区かわまちづくり)

### □事業目的

・新宮市のまちづくりと連携し、池田港の歴史的価値(鵜殿の渡し跡)を保全した水辺整備により、熊野古道(川の参詣道)とまちなかの歴史資源をつないだ水辺の利用推進を図る。

### □整備内容

・低水護岸 L=170m

### □事業の投資効果

・護岸整備による治水上の安全性の向上。  
・川舟下りの寄港地等としての水辺の利活用による熊野川周辺の地域活性化。



■整備後(H29.1)



□整備前



■整備後(H29.5)



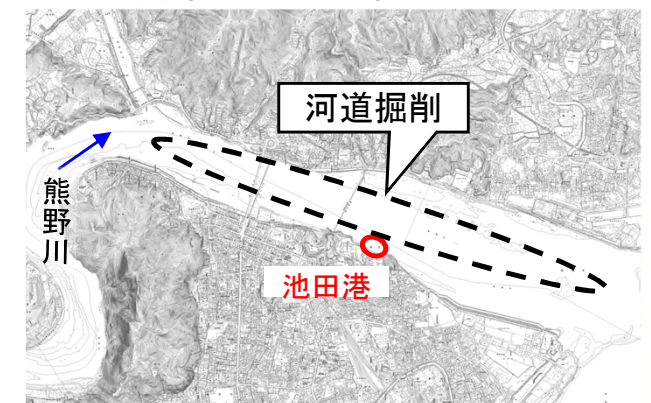
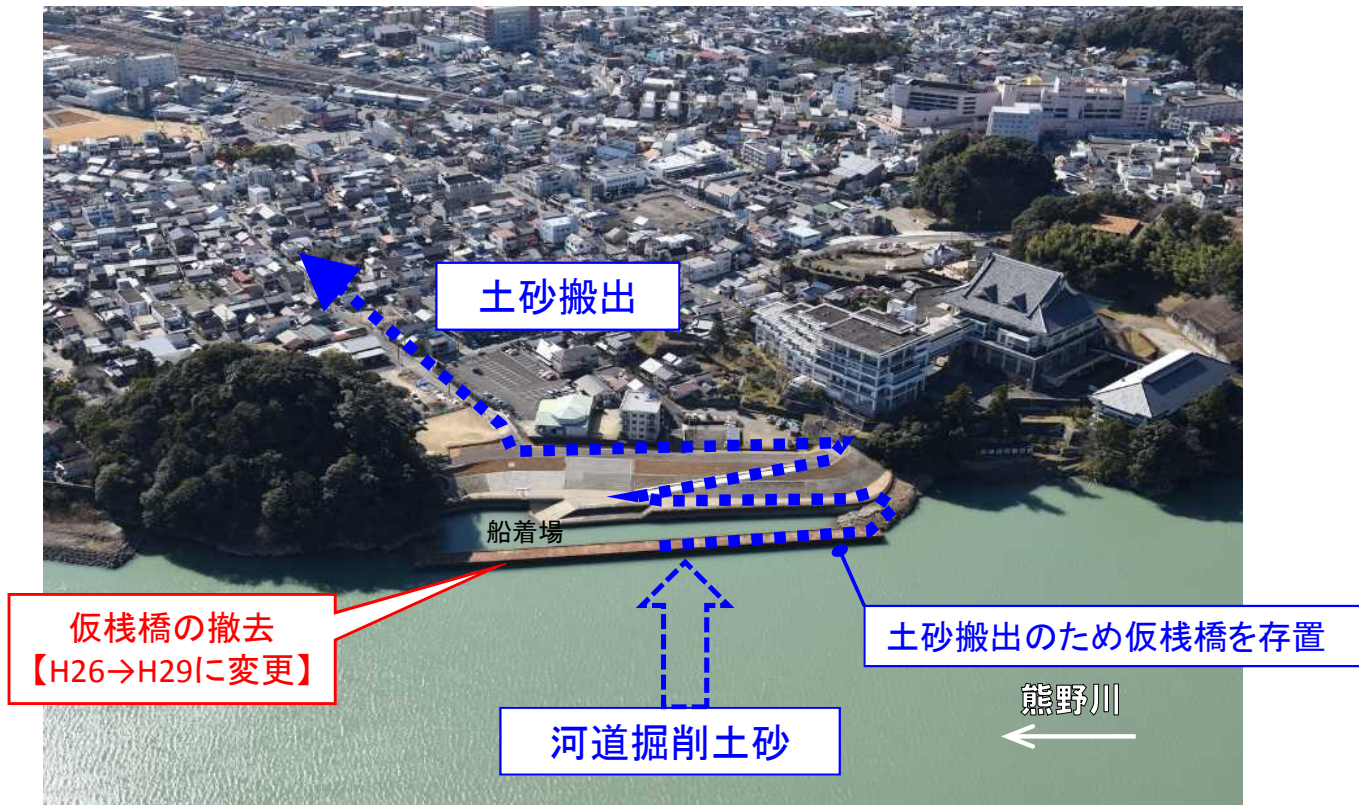


## 水辺の整備に係る事業(池田港地区かわまちづくり)

### □事業期間の変更

- ・本地区については、平成26年度に護岸整備が完了。モニタリングを5年間実施し、平成31年度事業完了予定としていた。
- ・護岸整備のために設置した仮棧橋を平成26年度に撤去する予定であったが、紀伊半島大水害(平成23年)を受け、激甚災害対策特別緊急事業(以下、激特事業)による河道掘削の土砂搬出に活用する必要が生じたため存置。
- ・そのため、整備済みの護岸施設(船着き場等)の利活用が不可。
- ・仮棧橋は激特事業による河道掘削が完了する今年度に撤去する予定。
- ・今後は、水辺利用など事業効果の発現状況を確認するため、モニタリング\*を実施し、平成34年度事業完了予定。

※施設の利用者数、イベント等の利用状況、施設改善の必要性の確認など



## □事業の投資効果(費用対効果)

- ・事業期間の延長に伴い、費用対効果分析を実施。
- ・便益(B): CVM(仮想的市場評価法)により、受益範囲の住民を対象に無作為で配布したアンケートにより、支払い意思額(WTP)を把握。WTPから年便益を求め、評価期間を考慮し、残存価値を付加して算出。
- ・費用(C): 事業に係る建設費および維持管理費で算出。
- ・水系全体のB/Cは1.3。

名称	事業全体		
	総便益(B)	総費用(C)	B/C
新宮川総合水系環境整備事業	110億円	82億円	1.3
水環境改善に係る事業	83億円	69億円	1.2
水辺整備に係る事業	27億円	13億円	2.1

算出条件	水辺整備に係る事業
	池田港地区かわまちづくり
	<b>再評価</b>
評価時点	平成29年度
整備期間	平成17~29年度
評価期間	整備期間+50年間
受益範囲	16km
受益世帯数	14,852世帯
配付数	1,500票
回答数	504票
回答率	34%
有効回答数	299票
有効回答率	59%
支払い意思額(WTP)	249円/月・世帯

※総便益(B)、総費用(C)は社会的割引率4%を用いて、評価時点(平成29年度)で現在価値化。  
 ※B/C(水辺整備事業および水系)算出のための総便益(B)は受益範囲の重複を考慮して算出。  
 ※完了箇所(市田川浄化事業および新宮川水辺プラザ)の便益、費用について、総便益(B)、総費用(C)に計上している。  
 ※池田港地区かわまちづくりの便益算出に用いた世帯数はH27国勢調査による。  
 ※残事業のB/Cの算出については、本事業では残事業なしのため、省略。

# 3. 関係自治体の意見等

## ■和歌山県知事

(平成29年10月19日付け 県総第10040001号)

新宮川総合水系環境整備事業は、歴史と文化を育んできた新宮市のまちづくりに関わる重要な事業であり、対応方針(原案)のとおり事業継続が妥当と考えます。

なお、事業実施にあたっては、より一層のコスト縮減等に務め、一日も早い完成をお願いします。



## 4. 対応方針(原案)

新宮川総合水系環境整備事業は、事業の必要性等に関する視点に変更はなく、事業の進捗の見込みの視点から継続が妥当であると判断できる。

事業継続



No.4-2  
近畿地方整備局  
事業評価監視委員会  
平成29年度第4回

# 新宮川総合水系環境整備事業

【再評価】

平成 29 年 10 月  
近畿地方整備局

## 【概要】

水系・河川名	新宮川水系（熊野川）	
事業名	新宮川総合水系環境整備事業	
事業主体	近畿地方整備局	
関連自治体	新宮市	
事業期間	水環境の整備に係る事業	1991年度～2007年度（平成3年度～平成19年度）
	水辺の整備に係る事業	2001年度～2017年度（平成13年度～平成29年度）
基準(評価)年度	2017年度（平成29年度）	

## 【費用】

		建設費 (百万円)	維持管理費 (百万円)	合計 (百万円)	
単純合計 (実質価格)	事業全体	3,743	718	4,461	
	残事業	0	0	0	
	整備内容別 (残事業を 含めた場合)	水環境の整備に係る事業	2,898	672	3,569
		水辺の整備に係る事業	846	46	892
基準年にお ける現在価 格合計(C)	事業全体	7,674	547	8,221	
	残事業	0	0	0	
	整備内容別 (残事業を 含めた場合)	水環境の整備に係る事業	6,409	520	6,929
		水辺の整備に係る事業	1,265	28	1,293

## 【便益】

		便益	
供用年度 (全体)	水環境の整備に係る事業	2008年度（平成20年度）	
	水辺の整備に係る事業	2018年度（平成30年度）	
供用年度の 単年度便益 (実質価格)	事業全体	276百万円	
	残事業	0百万円	
	整備内容別（残事業を 含めた場合）	水環境の整備に係る事業	194百万円
		水辺の整備に係る事業	87百万円
残存価値 (実質価格)	事業全体	250百万円	
	残事業	0百万円	
	整備内容別（残事業を 含めた場合）	水環境の整備に係る事業	195百万円
		水辺の整備に係る事業	55百万円
基準年にお ける現在価 値合計(B)	事業全体	11,054百万円	
	残事業	0百万円	
	整備内容別（残事業を 含めた場合）	水環境の整備に係る事業	8,315百万円
		水辺の整備に係る事業	2,739百万円

## 【費用便益分析結果】

費用便益比 (CBR)	事業全体	1.34	
	残事業	—	
	整備内容別（残事業を 含めた場合）	水環境の整備に係る事業	1.20
		水辺の整備に係る事業	2.12



【費用便益算定シート】

・新宮川総合水系環境整備事業（事業全体）

基準（評価年度）	2017 (H29)
供用年度	2018 (H30)
社会的割引率	4%

[単位：百万円]

年度	デフレーター			割引率	便 益 (B)					費 用 (C)									
	t	西暦	和暦		換算係数	便益①		残存価値②		計①+②	建設費③			維持管理費④			計③+④		
						便益	実質価格	現在価値	実質価格		現在価値	現在価値	費用	実質価格	現在価値	費用	実質価格	現在価値	費用
-26	1991	H3	1.021	2.772	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	19.5	19.9	55.2	0.0	0.0	0.0	19.5	19.9	55.2	
-25	1992	H4	1.012	2.666	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	214.4	217.0	578.4	0.0	0.0	0.0	214.4	217.0	578.4	
-24	1993	H5	1.015	2.563	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	429.0	435.4	1,116.1	0.0	0.0	0.0	429.0	435.4	1,116.1	
-23	1994	H6	1.014	2.465	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	259.8	263.5	649.3	0.0	0.0	0.0	259.8	263.5	649.3	
-22	1995	H7	1.018	2.370	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	151.0	153.7	364.2	0.0	0.0	0.0	151.0	153.7	364.2	
-21	1996	H8	1.022	2.279	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	271.7	277.6	632.6	0.0	0.0	0.0	271.7	277.6	632.6	
-20	1997	H9	1.017	2.191	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	325.5	331.0	725.3	0.0	0.0	0.0	325.5	331.0	725.3	
-19	1998	H10	1.038	2.107	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	369.0	383.1	807.1	0.0	0.0	0.0	369.0	383.1	807.1	
-18	1999	H11	1.049	2.026	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
-17	2000	H12	1.051	1.948	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	61.9	65.1	126.8	9.5	10.0	19.5	71.4	75.1	146.3	
-16	2001	H13	1.078	1.873	142.2	153.2	287.0		287.0	540.8	582.8	1,091.5	9.5	10.3	19.2	550.3	593.1	1,110.8	
-15	2002	H14	1.093	1.801	205.9	225.1	405.3		405.3	236.5	258.5	465.5	9.8	10.7	19.2	246.3	269.2	484.7	
-14	2003	H15	1.093	1.732	221.9	242.5	420.0		420.0	80.4	87.9	152.2	9.8	10.7	18.5	90.2	98.6	170.7	
-13	2004	H16	1.088	1.665	227.4	247.5	412.1		412.1	4.8	5.2	8.7	9.8	10.6	17.7	14.6	15.8	26.4	
-12	2005	H17	1.083	1.601	227.7	246.6	394.8		394.8	66.1	71.6	114.6	9.8	10.6	16.9	75.9	82.2	131.6	
-11	2006	H18	1.071	1.539	230.0	246.4	379.2		379.2	35.4	38.0	58.4	9.8	10.5	16.1	45.2	48.4	74.5	
-10	2007	H19	1.055	1.480	230.9	243.5	360.5		360.5	32.6	34.3	50.8	9.8	10.3	15.3	42.3	44.7	66.1	
-9	2008	H20	1.024	1.423	232.0	237.5	338.1		338.1	21.5	22.0	31.4	9.8	10.0	14.2	31.3	32.0	45.6	
-8	2009	H21	1.057	1.369	232.0	245.2	335.5		335.5	161.6	170.7	233.6	9.8	10.4	14.2	171.4	181.1	247.8	
-7	2010	H22	1.056	1.316	232.0	244.9	322.3		322.3	55.9	59.0	77.7	10.0	10.6	13.9	66.0	69.6	91.6	
-6	2011	H23	1.034	1.265	232.0	240.0	303.7		303.7	186.0	192.4	243.4	10.1	10.4	13.2	196.1	202.8	256.6	
-5	2012	H24	1.051	1.217	232.0	244.0	296.8		296.8	71.0	74.6	90.8	32.2	33.8	41.2	103.2	108.5	132.0	
-4	2013	H25	1.027	1.170	232.0	238.2	278.7		278.7	0.0	0.0	0.0	10.4	10.6	12.4	10.4	10.6	12.4	
-3	2014	H26	0.994	1.125	232.0	230.8	259.6		259.6	0.0	0.0	0.0	10.4	10.3	11.6	10.4	10.3	11.6	
-2	2015	H27	1.000	1.082	232.0	232.0	251.0		251.0	0.0	0.0	0.0	10.4	10.4	11.2	10.4	10.4	11.2	
-1	2016	H28	1.000	1.040	232.0	232.0	241.3		241.3	0.0	0.0	0.0	10.4	10.4	10.8	10.4	10.4	10.8	
0	2017	H29	1.000	1.000	232.0	232.0	232.0		232.0	0.0	0.0	0.0	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	
1	2018	H30	1.000	0.962	276.4	276.4	265.8		265.8				10.4	10.4	10.0	10.4	10.4	10.0	
2	2019	H31	1.000	0.925	276.4	276.4	255.6		255.6				10.4	10.4	9.6	10.4	10.4	9.6	
3	2020	H32	1.000	0.889	276.4	276.4	245.7		245.7				10.4	10.4	9.2	10.4	10.4	9.2	
4	2021	H33	1.000	0.855	276.4	276.4	236.3		236.3				10.4	10.4	8.8	10.4	10.4	8.8	
5	2022	H34	1.000	0.822	276.4	276.4	227.2		227.2				10.4	10.4	8.5	10.4	10.4	8.5	
6	2023	H35	1.000	0.790	276.4	276.4	218.5		218.5				10.4	10.4	8.2	10.4	10.4	8.2	
7	2024	H36	1.000	0.760	276.4	276.4	210.1		210.1				10.4	10.4	7.9	10.4	10.4	7.9	
8	2025	H37	1.000	0.731	276.4	276.4	202.0		202.0				10.4	10.4	7.6	10.4	10.4	7.6	
9	2026	H38	1.000	0.703	276.4	276.4	194.2		194.2				10.4	10.4	7.3	10.4	10.4	7.3	
10	2027	H39	1.000	0.676	276.4	276.4	186.7		186.7				10.4	10.4	7.0	10.4	10.4	7.0	
11	2028	H40	1.000	0.650	276.4	276.4	179.6		179.6				10.4	10.4	6.7	10.4	10.4	6.7	
12	2029	H41	1.000	0.625	276.4	276.4	172.7		172.7				10.4	10.4	6.5	10.4	10.4	6.5	
13	2030	H42	1.000	0.601	276.4	276.4	166.0		166.0				10.4	10.4	6.2	10.4	10.4	6.2	
14	2031	H43	1.000	0.577	276.4	276.4	159.6		159.6				10.4	10.4	6.0	10.4	10.4	6.0	
15	2032	H44	1.000	0.555	276.4	276.4	153.5		153.5				10.4	10.4	5.8	10.4	10.4	5.8	
16	2033	H45	1.000	0.534	276.4	276.4	147.6		147.6				10.4	10.4	5.5	10.4	10.4	5.5	
17	2034	H46	1.000	0.513	276.4	276.4	141.9		141.9				10.4	10.4	5.3	10.4	10.4	5.3	
18	2035	H47	1.000	0.494	276.4	276.4	136.5		136.5				10.4	10.4	5.1	10.4	10.4	5.1	
19	2036	H48	1.000	0.475	276.4	276.4	131.2		131.2				10.4	10.4	4.9	10.4	10.4	4.9	
20	2037	H49	1.000	0.456	276.4	276.4	126.2		126.2				10.4	10.4	4.7	10.4	10.4	4.7	
21	2038	H50	1.000	0.439	276.4	276.4	121.3		121.3				10.4	10.4	4.5	10.4	10.4	4.5	
22	2039	H51	1.000	0.422	276.4	276.4	116.6		116.6				10.4	10.4	4.4	10.4	10.4	4.4	
23	2040	H52	1.000	0.406	276.4	276.4	112.2		112.2				10.4	10.4	4.2	10.4	10.4	4.2	
24	2041	H53	1.000	0.390	276.4	276.4	107.8		107.8				10.4	10.4	4.1	10.4	10.4	4.1	
25	2042	H54	1.000	0.375	276.4	276.4	103.7		103.7				10.4	10.4	3.9	10.4	10.4	3.9	
26	2043	H55	1.000	0.361	276.4	276.4	99.7		99.7				10.4	10.4	3.7	10.4	10.4	3.7	
27	2044	H56	1.000	0.347	276.4	276.4	95.9		95.9				10.4	10.4	3.6	10.4	10.4	3.6	
28	2045	H57	1.000	0.333	276.4	276.4	92.2		92.2				10.4	10.4	3.5	10.4	10.4	3.5	
29	2046	H58	1.000	0.321	276.4	276.4	88.6		88.6				10.4	10.4	3.3	10.4	10.4	3.3	
30	2047	H59	1.000	0.308	276.4	276.4	85.2		85.2				10.4	10.4	3.2	10.4	10.4	3.2	
31	2048	H60	1.000	0.296	276.4	276.4	81.9		81.9				10.4	10.4	3.1	10.4	10.4	3.1	
32	2049	H61	1.000	0.285	276.4	276.4	78.8		78.8				10.4	10.4	3.0	10.4	10.4	3.0	
33	2050	H62	1.000	0.274	276.4	276.4	75.8		75.8				10.4	10.4	2.8	10.4	10.4	2.8	
34	2051	H63	1.000	0.264	276.4	276.4	72.9	18.9	4.8	77.6			10.4	10.4	2.7	10.4	10.4	2.7	
35	2052	H64	1.000	0.253	233.5	233.5	59.2		59.2				10.1	10.1	2.6	10.1	10.1	2.6	
36	2053	H65	1.000	0.244	233.5	233.5	56.9		56.9				10.1	10.1	2.5	10.1	10.1	2.5	
37	2054	H66	1.000	0.234	233.5	233.5	54.7		54.7				10.1	10.1	2.4	10.1	10.1	2.4	
38	2055	H67	1.000	0.225	233.5	233.5	52.6		52.6				10.1	10.1	2.3	10.1	10.1	2.3	
39	2056	H68	1.000	0.217	233.5	233.5	50.6		50.6				10.1	10.1	2.2	10.1	10.1	2.2	
40	2057	H69	1.000	0.208	233.5	233.5	48.6	194.6	39.0	87.6			10.1	10.1	2.1	10.1	10.1	2.1	
41	2058	H70	1.000	0.200	44.4	44.4	8.9		8.9				0.6	0.6	0.1	0.6	0.6	0.1	
42	2059	H71	1.000	0.193	44.4	44.4	8.5		8.5				0.6	0.6	0.1	0.6	0.6	0.1	
43	2060	H72	1.000	0.185	44.4	44.4	8.2		8.2				0.6	0.6	0.1	0.6	0.6	0.1	
44	2061	H73	1.000	0.178	44.4	44.4	7.9		7.9				0.6	0.6	0.1	0.6	0.6	0.1	
45	2062	H74	1.000	0.171	44.4	44.4	7.6		7.6				0.6	0.6	0.1	0.6	0.6	0.1	
46	2063	H75	1.000	0.165	44.4	44.4	7.3		7.3				0.6	0					

【費用便益算定シート】

・新宮川総合水系環境整備事業（水環境の整備に係る事業）

基準（評価年度）	2017 (H29)
供用年度	2008 (H20)
社会的割引率	4%

[単位：百万円]

年度	t	西暦	和暦	デフレ率 換算係数	割引率	便 益 (B)						費 用 (C)								
						便益①		残存価値②		計①+②	建設費③			維持管理費④			計③+④			
						便益	実質価格	現在価値	実質価格		現在価値	現在価値	費用	実質価格	現在価値	費用	実質価格	現在価値	費用	実質価格
整備期間	-26	1991	H3	1.021	2.772							19.5	19.9	55.2				19.5	19.9	55.2
	-25	1992	H4	1.012	2.666							214.4	217.0	578.4				214.4	217.0	578.4
	-24	1993	H5	1.015	2.563							429.0	435.4	1,116.1				429.0	435.4	1,116.1
	-23	1994	H6	1.014	2.465							259.8	263.5	649.3				259.8	263.5	649.3
	-22	1995	H7	1.018	2.370							151.0	153.7	364.2				151.0	153.7	364.2
	-21	1996	H8	1.022	2.279							271.7	277.6	632.6				271.7	277.6	632.6
	-20	1997	H9	1.017	2.191							325.5	331.0	725.3				325.5	331.0	725.3
	-19	1998	H10	1.038	2.107							369.0	383.1	807.1				369.0	383.1	807.1
	-18	1999	H11	1.049	2.026							0.0	0.0	0.0				0.0	0.0	0.0
	-17	2000	H12	1.051	1.948							61.9	65.1	126.8	9.5	10.0	19.5	71.4	75.1	146.3
部分供用期間	-16	2001	H13	1.078	1.873	142.2	153.2	287.0			287.0	307.2	331.1	620.1	9.5	10.3	19.2	316.8	341.4	639.3
	-15	2002	H14	1.093	1.801	163.0	178.1	320.8			320.8	236.5	258.5	465.5	9.5	10.4	18.8	246.1	268.9	484.3
	-14	2003	H15	1.093	1.732	179.0	195.6	338.7			338.7	80.4	87.9	152.2	9.5	10.4	18.0	90.0	98.3	170.2
	-13	2004	H16	1.088	1.665	184.4	200.7	334.3			334.3	4.8	5.2	8.7	9.5	10.4	17.3	14.3	15.6	25.9
	-12	2005	H17	1.083	1.601	184.8	200.1	320.4			320.4	33.5	36.3	58.1	9.5	10.3	16.5	43.1	46.6	74.7
	-11	2006	H18	1.071	1.539	187.0	200.3	308.4			308.4	14.4	15.4	23.7	9.5	10.2	15.7	23.9	25.6	39.4
	-10	2007	H19	1.055	1.480	188.0	198.3	293.5			293.5	16.3	17.2	25.4	9.5	10.0	14.9	25.8	27.2	40.3
施設完成後の評価期間(50年)	-9	2008	H20	1.024	1.423	189.1	193.6	275.5			275.5				9.5	9.8	13.9	9.5	9.8	13.9
	-8	2009	H21	1.057	1.369	189.1	199.8	273.4			273.4				9.5	10.1	13.8	9.5	10.1	13.8
	-7	2010	H22	1.056	1.316	189.1	199.6	262.7			262.7				9.5	10.1	13.2	9.5	10.1	13.2
	-6	2011	H23	1.034	1.265	189.1	195.6	247.5			247.5				9.5	9.9	12.5	9.5	9.9	12.5
	-5	2012	H24	1.051	1.217	189.1	198.8	241.9			241.9				31.4	33.0	40.2	31.4	33.0	40.2
	-4	2013	H25	1.027	1.170	189.1	194.1	227.1			227.1				9.5	9.8	11.4	9.5	9.8	11.4
	-3	2014	H26	0.994	1.125	189.1	188.1	211.5			211.5				9.5	9.5	10.7	9.5	9.5	10.7
	-2	2015	H27	1.000	1.082	189.1	189.1	204.5			204.5				9.5	9.5	10.3	9.5	9.5	10.3
	-1	2016	H28	1.000	1.040	189.1	189.1	196.7			196.7				9.5	9.5	9.9	9.5	9.5	9.9
	0	2017	H29	1.000	1.000	189.1	189.1	189.1			189.1				9.5	9.5	9.5	9.5	9.5	9.5
	1	2018	H30	1.000	0.962	189.1	189.1	181.8			181.8				9.5	9.5	9.2	9.5	9.5	9.2
	2	2019	H31	1.000	0.925	189.1	189.1	174.8			174.8				9.5	9.5	8.8	9.5	9.5	8.8
	3	2020	H32	1.000	0.889	189.1	189.1	168.1			168.1				9.5	9.5	8.5	9.5	9.5	8.5
	4	2021	H33	1.000	0.855	189.1	189.1	161.6			161.6				31.4	31.4	26.9	31.4	31.4	26.9
	5	2022	H34	1.000	0.822	189.1	189.1	155.4			155.4				9.5	9.5	7.8	9.5	9.5	7.8
	6	2023	H35	1.000	0.790	189.1	189.1	149.5			149.5				9.5	9.5	7.5	9.5	9.5	7.5
	7	2024	H36	1.000	0.760	189.1	189.1	143.7			143.7				9.5	9.5	7.2	9.5	9.5	7.2
	8	2025	H37	1.000	0.731	189.1	189.1	138.2			138.2				9.5	9.5	7.0	9.5	9.5	7.0
	9	2026	H38	1.000	0.703	189.1	189.1	132.9			132.9				9.5	9.5	6.7	9.5	9.5	6.7
	10	2027	H39	1.000	0.676	189.1	189.1	127.8			127.8				9.5	9.5	6.4	9.5	9.5	6.4
	11	2028	H40	1.000	0.650	189.1	189.1	122.8			122.8				9.5	9.5	6.2	9.5	9.5	6.2
	12	2029	H41	1.000	0.625	189.1	189.1	118.1			118.1				9.5	9.5	6.0	9.5	9.5	6.0
	13	2030	H42	1.000	0.601	189.1	189.1	113.6			113.6				9.5	9.5	5.7	9.5	9.5	5.7
	14	2031	H43	1.000	0.577	189.1	189.1	109.2			109.2				31.4	31.4	18.2	31.4	31.4	18.2
	15	2032	H44	1.000	0.555	189.1	189.1	105.0			105.0				9.5	9.5	5.3	9.5	9.5	5.3
	16	2033	H45	1.000	0.534	189.1	189.1	101.0			101.0				9.5	9.5	5.1	9.5	9.5	5.1
	17	2034	H46	1.000	0.513	189.1	189.1	97.1			97.1				9.5	9.5	4.9	9.5	9.5	4.9
	18	2035	H47	1.000	0.494	189.1	189.1	93.3			93.3				9.5	9.5	4.7	9.5	9.5	4.7
	19	2036	H48	1.000	0.475	189.1	189.1	89.8			89.8				9.5	9.5	4.5	9.5	9.5	4.5
	20	2037	H49	1.000	0.456	189.1	189.1	86.3			86.3				9.5	9.5	4.3	9.5	9.5	4.3
	21	2038	H50	1.000	0.439	189.1	189.1	83.0			83.0				9.5	9.5	4.2	9.5	9.5	4.2
	22	2039	H51	1.000	0.422	189.1	189.1	79.8			79.8				9.5	9.5	4.0	9.5	9.5	4.0
	23	2040	H52	1.000	0.406	189.1	189.1	76.7			76.7				9.5	9.5	3.9	9.5	9.5	3.9
	24	2041	H53	1.000	0.390	189.1	189.1	73.8			73.8				31.4	31.4	12.3	31.4	31.4	12.3
	25	2042	H54	1.000	0.375	189.1	189.1	70.9			70.9				9.5	9.5	3.6	9.5	9.5	3.6
	26	2043	H55	1.000	0.361	189.1	189.1	68.2			68.2				9.5	9.5	3.4	9.5	9.5	3.4
	27	2044	H56	1.000	0.347	189.1	189.1	65.6			65.6				9.5	9.5	3.3	9.5	9.5	3.3
	28	2045	H57	1.000	0.333	189.1	189.1	63.1			63.1				9.5	9.5	3.2	9.5	9.5	3.2
	29	2046	H58	1.000	0.321	189.1	189.1	60.6			60.6				9.5	9.5	3.1	9.5	9.5	3.1
	30	2047	H59	1.000	0.308	189.1	189.1	58.3			58.3				9.5	9.5	2.9	9.5	9.5	2.9
	31	2048	H60	1.000	0.296	189.1	189.1	56.1			56.1				9.5	9.5	2.8	9.5	9.5	2.8
	32	2049	H61	1.000	0.285	189.1	189.1	53.9			53.9				9.5	9.5	2.7	9.5	9.5	2.7
	33	2050	H62	1.000	0.274	189.1	189.1	51.8			51.8				9.5	9.5	2.6	9.5	9.5	2.6
	34	2051	H63	1.000	0.264	189.1	189.1	49.8			49.8				31.4	31.4	8.3	31.4	31.4	8.3
	35	2052	H64	1.000	0.253	189.1	189.1	47.9			47.9				9.5	9.5	2.4	9.5	9.5	2.4
	36	2053	H65	1.000	0.244	189.1	189.1	46.1			46.1				9.5	9.5	2.3	9.5	9.5	2.3
	37	2054	H66	1.000	0.234	189.1	189.1	44.3			44.3				9.5	9.5	2.2	9.5	9.5	2.2
	38	2055	H67	1.000	0.225	189.1	189.1	42.6			42.6				9.5	9.5	2.1	9.5	9.5	2.1
	39	2056	H68	1.000	0.217	189.1	189.1	41.0			41.0				9.5	9.5	2.1	9.5	9.5	2.1
	40	2057	H69	1.000	0.208	189.1	189.1	39.4			39.4				9.5	9.5	2.0	9.5	9.5	2.0
	合 計					10,683.6	10,827.5	8,276.0	194.6	39.0	8,314.9	2,794.9	2,897.8	6,408.9	662.2	671.5	519.7	3,457.1	3,569.3	6,928.5

総便益	B	8,314.9 百万円
総費用	C	6,928.5 百万円
費用便益費	B/C	1.20
純現在価値	B-C	1,386.4 百万円
経済的内部収益率		4.93%

【費用便益算定シート】

・新宮川総合水系環境整備事業（水辺の整備に係る事業）

基準（評価年度）	2017 (H29)
供用年度	2018 (H30)
社会的割引率	4%

[単位：百万円]

年度	t	西暦	和暦	デフレーター 修正係数	割引率	便 益 (B)						費 用 (C)											
						便 益 ①			残 存 価 値 ②			計①+②			建 設 費 ③			維 持 管 理 費 ④			計③+④		
						便 益	実 質 価 格	現 在 価 値	実 質 価 格	現 在 価 値	現 在 価 値	費 用	実 質 価 格	現 在 価 値	費 用	実 質 価 格	現 在 価 値	費 用	実 質 価 格	現 在 価 値			
整備期間	-16	2001	H13	1.078	1.873							233.6	251.7	471.4				233.6	251.7	471.4			
	-15	2002	H14	1.093	1.801	42.9	46.9	84.5			84.5	0.0	0.0	0.0	0.2	0.3	0.5	0.2	0.3	0.5			
	-14	2003	H15	1.093	1.732	42.9	46.9	81.3			81.3	0.0	0.0	0.0	0.2	0.3	0.5	0.2	0.3	0.5			
	-13	2004	H16	1.088	1.665	42.9	46.7	77.8			77.8	0.0	0.0	0.0	0.2	0.3	0.4	0.2	0.3	0.4			
	-12	2005	H17	1.083	1.601	42.9	46.5	74.5			74.5	32.6	35.3	56.5	0.2	0.3	0.4	32.8	35.5	56.9			
	-11	2006	H18	1.071	1.539	42.9	46.0	70.8			70.8	21.0	22.5	34.7	0.2	0.3	0.4	21.3	22.8	35.1			
	-10	2007	H19	1.055	1.480	42.9	45.3	67.0			67.0	16.3	17.2	25.4	0.2	0.3	0.4	16.5	17.4	25.8			
	-9	2008	H20	1.024	1.423	42.9	44.0	62.6			62.6	21.5	22.0	31.4	0.2	0.2	0.4	21.8	22.3	31.7			
	-8	2009	H21	1.057	1.369	42.9	45.4	62.1			62.1	161.6	170.7	233.6	0.3	0.3	0.4	161.9	171.0	234.0			
	-7	2010	H22	1.056	1.316	42.9	45.3	59.7			59.7	55.9	59.0	77.7	0.5	0.5	0.7	56.4	59.6	78.4			
	-6	2011	H23	1.034	1.265	42.9	44.4	56.2			56.2	186.0	192.4	243.4	0.6	0.6	0.7	186.5	192.9	244.1			
	-5	2012	H24	1.051	1.217	42.9	45.2	54.9			54.9	71.0	74.6	90.8	0.8	0.8	1.0	71.7	75.4	91.8			
	-4	2013	H25	1.027	1.170	42.9	44.1	51.6			51.6	0.0	0.0	0.0	0.8	0.9	1.0	0.8	0.9	1.0			
	-3	2014	H26	0.994	1.125	42.9	42.7	48.0			48.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.8	0.9	0.8	0.8	0.9			
	-2	2015	H27	1.000	1.082	42.9	42.9	46.4			46.4	0.0	0.0	0.0	0.8	0.8	0.9	0.8	0.8	0.9			
	-1	2016	H28	1.000	1.040	42.9	42.9	44.7			44.7	0.0	0.0	0.0	0.8	0.8	0.9	0.8	0.8	0.9			
0	2017	H29	1.000	1.000	42.9	42.9	42.9			42.9	0.0	0.0	0.0	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8				
施設完成後の評価期間（50年）	1	2018	H30	1.000	0.962	87.3	87.3	84.0			84.0				0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8			
	2	2019	H31	1.000	0.925	87.3	87.3	80.7			80.7				0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8			
	3	2020	H32	1.000	0.889	87.3	87.3	77.6			77.6				0.8	0.8	0.7	0.8	0.8	0.7			
	4	2021	H33	1.000	0.855	87.3	87.3	74.6			74.6				0.8	0.8	0.7	0.8	0.8	0.7			
	5	2022	H34	1.000	0.822	87.3	87.3	71.8			71.8				0.8	0.8	0.7	0.8	0.8	0.7			
	6	2023	H35	1.000	0.790	87.3	87.3	69.0			69.0				0.8	0.8	0.7	0.8	0.8	0.7			
	7	2024	H36	1.000	0.760	87.3	87.3	66.4			66.4				0.8	0.8	0.6	0.8	0.8	0.6			
	8	2025	H37	1.000	0.731	87.3	87.3	63.8			63.8				0.8	0.8	0.6	0.8	0.8	0.6			
	9	2026	H38	1.000	0.703	87.3	87.3	61.4			61.4				0.8	0.8	0.6	0.8	0.8	0.6			
	10	2027	H39	1.000	0.676	87.3	87.3	59.0			59.0				0.8	0.8	0.6	0.8	0.8	0.6			
	11	2028	H40	1.000	0.650	87.3	87.3	56.7			56.7				0.8	0.8	0.5	0.8	0.8	0.5			
	12	2029	H41	1.000	0.625	87.3	87.3	54.5			54.5				0.8	0.8	0.5	0.8	0.8	0.5			
	13	2030	H42	1.000	0.601	87.3	87.3	52.4			52.4				0.8	0.8	0.5	0.8	0.8	0.5			
	14	2031	H43	1.000	0.577	87.3	87.3	50.4			50.4				0.8	0.8	0.5	0.8	0.8	0.5			
	15	2032	H44	1.000	0.555	87.3	87.3	48.5			48.5				0.8	0.8	0.5	0.8	0.8	0.5			
	16	2033	H45	1.000	0.534	87.3	87.3	46.6			46.6				0.8	0.8	0.4	0.8	0.8	0.4			
	17	2034	H46	1.000	0.513	87.3	87.3	44.8			44.8				0.8	0.8	0.4	0.8	0.8	0.4			
	18	2035	H47	1.000	0.494	87.3	87.3	43.1			43.1				0.8	0.8	0.4	0.8	0.8	0.4			
	19	2036	H48	1.000	0.475	87.3	87.3	41.4			41.4				0.8	0.8	0.4	0.8	0.8	0.4			
	20	2037	H49	1.000	0.456	87.3	87.3	39.9			39.9				0.8	0.8	0.4	0.8	0.8	0.4			
	21	2038	H50	1.000	0.439	87.3	87.3	38.3			38.3				0.8	0.8	0.4	0.8	0.8	0.4			
	22	2039	H51	1.000	0.422	87.3	87.3	36.8			36.8				0.8	0.8	0.4	0.8	0.8	0.4			
	23	2040	H52	1.000	0.406	87.3	87.3	35.4			35.4				0.8	0.8	0.3	0.8	0.8	0.3			
	24	2041	H53	1.000	0.390	87.3	87.3	34.1			34.1				0.8	0.8	0.3	0.8	0.8	0.3			
	25	2042	H54	1.000	0.375	87.3	87.3	32.8			32.8				0.8	0.8	0.3	0.8	0.8	0.3			
	26	2043	H55	1.000	0.361	87.3	87.3	31.5			31.5				0.8	0.8	0.3	0.8	0.8	0.3			
	27	2044	H56	1.000	0.347	87.3	87.3	30.3			30.3				0.8	0.8	0.3	0.8	0.8	0.3			
	28	2045	H57	1.000	0.333	87.3	87.3	29.1			29.1				0.8	0.8	0.3	0.8	0.8	0.3			
	29	2046	H58	1.000	0.321	87.3	87.3	28.0			28.0				0.8	0.8	0.3	0.8	0.8	0.3			
	30	2047	H59	1.000	0.308	87.3	87.3	26.9			26.9				0.8	0.8	0.3	0.8	0.8	0.3			
	31	2048	H60	1.000	0.296	87.3	87.3	25.9			25.9				0.8	0.8	0.2	0.8	0.8	0.2			
	32	2049	H61	1.000	0.285	87.3	87.3	24.9			24.9				0.8	0.8	0.2	0.8	0.8	0.2			
	33	2050	H62	1.000	0.274	87.3	87.3	23.9			23.9				0.8	0.8	0.2	0.8	0.8	0.2			
	34	2051	H63	1.000	0.264	87.3	87.3	23.0	18.9	4.8	27.8				0.8	0.8	0.2	0.8	0.8	0.2			
35	2052	H64	1.000	0.253	44.4	44.4	11.2			11.2				0.6	0.6	0.2	0.6	0.6	0.2				
36	2053	H65	1.000	0.244	44.4	44.4	10.8			10.8				0.6	0.6	0.1	0.6	0.6	0.1				
37	2054	H66	1.000	0.234	44.4	44.4	10.4			10.4				0.6	0.6	0.1	0.6	0.6	0.1				
38	2055	H67	1.000	0.225	44.4	44.4	10.0			10.0				0.6	0.6	0.1	0.6	0.6	0.1				
39	2056	H68	1.000	0.217	44.4	44.4	9.6			9.6				0.6	0.6	0.1	0.6	0.6	0.1				
40	2057	H69	1.000	0.208	44.4	44.4	9.2			9.2				0.6	0.6	0.1	0.6	0.6	0.1				
41	2058	H70	1.000	0.200	44.4	44.4	8.9			8.9				0.6	0.6	0.1	0.6	0.6	0.1				
42	2059	H71	1.000	0.193	44.4	44.4	8.5			8.5				0.6	0.6	0.1	0.6	0.6	0.1				
43	2060	H72	1.000	0.185	44.4	44.4	8.2			8.2				0.6	0.6	0.1	0.6	0.6	0.1				
44	2061	H73	1.000	0.178	44.4	44.4	7.9			7.9				0.6	0.6	0.1	0.6	0.6	0.1				
45	2062	H74	1.000	0.171	44.4	44.4	7.6			7.6				0.6	0.6	0.1	0.6	0.6	0.1				
46	2063	H75	1.000	0.165	44.4	44.4	7.3			7.3				0.6	0.6	0.1	0.6	0.6	0.1				
47	2064	H76	1.000	0.158	44.4	44.4	7.0			7.0				0.6	0.6	0.1	0.6	0.6	0.1				
48	2065	H77	1.000	0.152	44.4	44.4	6.8			6.8				0.6	0.6	0.1	0.6	0.6	0.1				
49	2066	H78	1.000	0.146	44.4	44.4</																	



【算出説明書】(水環境の整備に係る事業)

事業概要																					
事業目的	<p>熊野川の支川である市田川は、新宮市の市街地を流れる延長4.8kmの河川であり、民家が近接し、生活と密接した河川であるが、流域の都市化に伴い水質が悪化した。</p> <p>その水質の悪化した市田川及び浮島川のBOD値を、環境基準の10mg/l以下となるように水質改善を行うものである。</p>																				
事業内容 (事業箇所図)	<ul style="list-style-type: none"> <li>熊野川本川から取水するための取水口、堤外導水路及びポンプアップのための揚水機場、市田川・浮島川に導水するための堤内導水路からなる。</li> <li>熊野川右岸距離標 3.4km+20.0m (新宮市相筋地先)</li> </ul> <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <thead> <tr> <th>施設名</th> <th>内 容</th> <th>事業主体</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>取水口</td> <td>B4.0m×H2.26m</td> <td rowspan="3">国土交通省</td> </tr> <tr> <td>堤外導水路</td> <td>B1.25m×H1.0m×L820m</td> </tr> <tr> <td>揚水機場</td> <td>0.5m<sup>3</sup>/s×2台</td> </tr> <tr> <td>堤内導水路</td> <td>径1.0m×L930m</td> <td rowspan="3">和歌山県</td> </tr> <tr> <td>浮島川導水路</td> <td>径0.8m×L360m</td> </tr> <tr> <td>市田川導水路</td> <td>径0.6m×L130m</td> </tr> <tr> <td>浮島の森揚水ポンプ</td> <td>0.03m<sup>3</sup>/s</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・機械掘削、ポンプ浚渫及びポンプ圧送により、8,330 m<sup>3</sup>の底泥を浚渫。</p> <p style="text-align: center;">水環境の整備に係る事業整備箇所位置図</p>	施設名	内 容	事業主体	取水口	B4.0m×H2.26m	国土交通省	堤外導水路	B1.25m×H1.0m×L820m	揚水機場	0.5m <sup>3</sup> /s×2台	堤内導水路	径1.0m×L930m	和歌山県	浮島川導水路	径0.8m×L360m	市田川導水路	径0.6m×L130m	浮島の森揚水ポンプ	0.03m <sup>3</sup> /s	
施設名	内 容	事業主体																			
取水口	B4.0m×H2.26m	国土交通省																			
堤外導水路	B1.25m×H1.0m×L820m																				
揚水機場	0.5m <sup>3</sup> /s×2台																				
堤内導水路	径1.0m×L930m	和歌山県																			
浮島川導水路	径0.8m×L360m																				
市田川導水路	径0.6m×L130m																				
浮島の森揚水ポンプ	0.03m <sup>3</sup> /s																				

## 【算出説明書】(水環境の整備に係る事業)

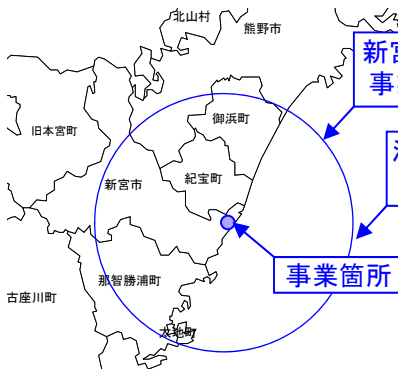
費用便益比の算定根拠											
評価手法	CVM										
便益計測期間	平成13年度～平成69年度(事業完了から50年)										
年便益	<p>○年平均便益額</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既事業：189百万円(=385円/月・世帯×104.7/108.3×12ヶ月×48,554世帯×0.872)</li> <li>※平成23年に実施したCVMによるWTPをデフレータで換算</li> <li>※効果に対する直轄事業の寄与率を県事業費との比率で設定(0.872)</li> </ul> <p>○残存価値(現在価値)：39百万円</p> <p>○総便益B</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既事業：総便益B=Σ単年度便益額/(1+0.04)<sup>n</sup>+残存価値=8,315百万円</li> <li>※世帯数は平成17年国勢調査に基づく</li> </ul>										
便益	<p>○便益範囲：新宮市、那智勝浦町、太地町、古座川町、北山村、串本町、旧本宮町(現田辺市)、旧大塔村(現田辺市)、熊野市、御浜町、紀宝町、十津川村(事業箇所から距離帯別の認知度及び利用頻度の関係进行分析し、便益範囲(30km圏域)を設定)</p> <p>○世帯数：48,554世帯</p> <p>○配布回収方法：郵送</p> <p>○アンケート票数：</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業分野</th> <th>世帯数</th> <th>配布数</th> <th>回収数(回収率)</th> <th>支払意思額(WTP)の有効回答数(有効回答率)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>水環境の整備に係る事業</td> <td>48,554世帯</td> <td>1,030世帯</td> <td>278部(27.0%)</td> <td>212部(76.3%)</td> </tr> </tbody> </table>	事業分野	世帯数	配布数	回収数(回収率)	支払意思額(WTP)の有効回答数(有効回答率)	水環境の整備に係る事業	48,554世帯	1,030世帯	278部(27.0%)	212部(76.3%)
	事業分野	世帯数	配布数	回収数(回収率)	支払意思額(WTP)の有効回答数(有効回答率)						
水環境の整備に係る事業	48,554世帯	1,030世帯	278部(27.0%)	212部(76.3%)							
評価範囲(評価範囲図)											
費用	<p>建設費</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業全体：2,898百万円(平成3年度～平成19年度)</li> <li>※デフレータを考慮した実質価格</li> </ul>										
	<p>維持管理費</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業全体：672百万円</li> <li>(過去の実績の操作委託、点検及び運転費用を元に設定。維持管理費は平成12年度から平成69年度まで計上)</li> <li>※デフレータを考慮した実質価格</li> </ul>										
	<p>総費用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業全体：建設費+Σ年間維持管理費/(1+0.04)<sup>n</sup>=6,929百万円</li> </ul>										
費用便益比(B/C)	事業全体：1.20										

【算出説明書】(水辺の整備に係る事業)

事業概要	
事業目的	<p>新宮川水辺プラザ整備事業は新宮市による丹鶴城公園整備と連携して、親水性及び文化財の保全を図る、親水護岸を整備するものである。</p> <p>また、池田港地区かわまちづくり整備事業は新宮市の地域計画と連携し、護岸整備により安全性・親水性の向上を図るとともに、まちづくりと一体となった「歴史・文化の川づくり」に関する水辺空間を整備するものである。</p>
事業内容 (事業箇所図)	<ul style="list-style-type: none"><li>・新宮川水辺プラザ整備事業：親水性護岸（捨石護岸L=70m、捨石8,400 m<sup>3</sup>）</li><li>・池田港地区かわまちづくり整備事業：池田地区の護岸整備（L=170m）</li></ul>  <p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"><li>整備済</li><li>整備中</li><li>世界遺産（川の参詣道）</li><li>歴史的な資源</li></ul> <p>新宮川水辺プラザ整備事業</p>  <p>熊野川</p> <p>水際部の文化財の保全</p> <p>池田港地区かわまちづくり整備事業</p>  <p>景観に配慮した護岸</p> <p>船着場</p> <p>護岸 L=170m</p> <p>熊野川</p>
水辺の整備に係る事業整備箇所位置図	



## 【算出説明書】(水辺の整備に係る事業)

費用便益比の算定根拠																
評価手法	CVM															
便益計測期間	平成14年度～平成79年度(事業完了から50年)															
年便益	<p>○年平均便益額：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既事業〔新宮川水辺プラザ整備事業〕 =43百万円(=236円/月・世帯×104.7/108.3×12ヶ月×15,685世帯) ※平成23年に実施したCVMによるWTPをデフレータで換算</li> <li>・既事業〔池田港地区かわまちづくり整備事業〕 =44百万円(=249円/月・世帯×12ヶ月×14,852世帯) ※平成29年に実施したCVMによる</li> </ul> <p>○残存価値(現在価値)：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既事業：10百万円</li> </ul> <p>○総便益B</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既事業：総便益<math>B = \sum \text{単年度便益額} / (1+0.04)^n + \text{残存価値} = 2,739</math>百万円</li> <li>※新宮川水辺プラザ整備事業の世帯数は平成17年国勢調査に基づく</li> <li>※池田港地区かわまちづくり整備事業の世帯数は平成27年国勢調査に基づく</li> <li>※上記は、各事業の便益範囲の重複を避けるため、便益を算定する際の世帯数を、16km圏域の世帯数の1/2ずつとしたもの</li> </ul>															
便益	<p>○便益範囲：新宮市、那智勝浦町、太地町、熊野市、御浜町、紀宝町(事業箇所から距離帯別の利用頻度及び認知度の関係を分析し、便益範囲(新宮川水辺プラザ整備事業16km、池田港地区かわまちづくり整備事業16kmを設定)</p> <p>○世帯数：新宮川水辺プラザ整備事業15,685世帯、池田港地区かわまちづくり整備事業14,852世帯</p> <p>○配布回収方法：郵送</p> <p>○アンケート票数：</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業分野</th> <th>世帯数</th> <th>配布数</th> <th>回収数(回収率)</th> <th>支払意思額(WTP)の有効回答数(有効回答率)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新宮川水辺プラザ整備事業</td> <td>15,685世帯</td> <td>1,600世帯</td> <td>504部(31.5%)</td> <td>351部(69.6%)</td> </tr> <tr> <td>池田港地区かわまちづくり整備事業</td> <td>14,852世帯</td> <td>1,500世帯</td> <td>504部(33.6%)</td> <td>299部(59.3%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>  </p> <p> <b>新宮川水辺プラザ整備事業の便益範囲16km</b>  <b>池田港地区かわまちづくり整備事業の便益範囲16km</b>  <b>事業箇所</b> </p> <p>         ※新宮川水辺プラザ整備事業の世帯数は平成17年国勢調査に基づく          ※池田港地区かわまちづくり整備事業の世帯数は平成27年国勢調査に基づく          ※上記は、各事業の便益範囲の重複を避けるため、便益を算定する際の世帯数を、16km圏域の世帯数の1/2ずつとしたもの       </p>	事業分野	世帯数	配布数	回収数(回収率)	支払意思額(WTP)の有効回答数(有効回答率)	新宮川水辺プラザ整備事業	15,685世帯	1,600世帯	504部(31.5%)	351部(69.6%)	池田港地区かわまちづくり整備事業	14,852世帯	1,500世帯	504部(33.6%)	299部(59.3%)
事業分野	世帯数	配布数	回収数(回収率)	支払意思額(WTP)の有効回答数(有効回答率)												
新宮川水辺プラザ整備事業	15,685世帯	1,600世帯	504部(31.5%)	351部(69.6%)												
池田港地区かわまちづくり整備事業	14,852世帯	1,500世帯	504部(33.6%)	299部(59.3%)												
費用	建設費	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業全体：846百万円(平成13年度～平成29年度)</li> <li>※デフレータを考慮した実質価格</li> </ul>														
	維持管理費	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業全体：46百万円</li> <li>(過去の紀南河川国道事務所での河川管理実績を元に設定。維持管理費は平成14年度から平成79年度まで計上) ※デフレータを考慮した実質価格</li> </ul>														
	総費用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業全体：建設費+<math>\sum</math>年間維持管理費<math>/(1+0.04)^n = 1,293</math>百万円</li> </ul>														
費用便益比(B/C)	事業全体：2.12															

## 【算出説明書】(新宮川総合水系環境整備事業)

費用便益比の算定根拠		
便益	評価手法	CVM
	総便益	・事業全体：総便益 $B = \sum \text{単年度便益額} / (1+0.04)^n + \text{残存価値} = 11,054$ 百万円
費用	建設費	・事業全体：3,743 百万円 ※デフレーターを考慮した実質価格
	維持管理費	・事業全体：718 百万円 ※デフレーターを考慮した実質価格
	総費用	・事業全体：建設費 + $\sum \text{年間維持管理費} / (1+0.04)^n = 8,221$ 百万円
費用便益比 (B/C)		事業全体：1.34

## 事業費の内訳書

### 河川事業

事業名	新宮川総合水系環境整備事業(全体事業費)
-----	----------------------

※ ( )欄に残事業費、全体事業費の別を記入すること。

評価年度	平成29年度	再評価
------	--------	-----

※ 評価の種類(新規事業採択時評価、再評価、完了後の事後評価)の別を記入すること。

区分	費目	工種	単位	数量	金額 (百万円)	備考	
工事費			式		2,812		
	本工事費			式	1	2,812	
		浚渫	千m <sup>3</sup>	8.3	614	市田川浄化	
		導水路	m	1,750	1,647	〃	
		護岸	m	70	184	新宮川水辺プラザ	
		護岸	m	170	367	池田港地区かわまちづくり	
用地費及補償費			式		9		
	用地費			式	1	9	
	補償費			式			
間接経費			式	1	527		
工事諸費			式	1	382		
事業費 計			式	1	3,730		

維持管理費	式	1	760	H12～H19
-------	---	---	-----	---------

※1 事業費については、事業の執行状況を踏まえて再評価ごとに適宜見直すこと。

※2 「工種」及び「金額」については、原則、治水経済調査マニュアル(案)に準拠して記載すること。

※3 上記によらないものについては、過去の類似の実績等に基づき記載すること。

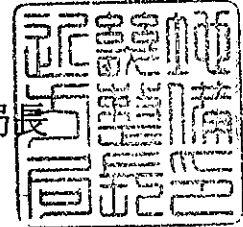
※4 備考欄に、一式計上している工種の内容等を記載すること。



国近整企画114号  
平成29年10月4日

和歌山県知事 殿

近畿地方整備局長



近畿地方整備局事業評価監視委員会に諮る対応方針  
(原案)の作成に係る意見照会について(依頼)

貴職におかれましては、日頃から国土交通行政に対する御理解、御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当地方整備局管内における直轄事業については、国土交通省所管公共事業の再評価実施要領(以下「実施要領」という。)に基づき、事業採択後一定期間が経過している事業等について、その効率性、実施過程の透明性を図るべく、近畿地方整備局事業評価監視委員会(以下「委員会」という。)において、再評価に係る対応方針(原案)について審議しております。

このたび、平成29年10月30日(月)に委員会を開催することとなりましたので、実施要領に基づき、委員会に諮る対応方針(原案)の作成にあたり、平成29年10月20日(金)までに、別紙について貴職の御意見を承りたく依頼いたします。

※御意見の送付・問い合わせ先

近畿地方整備局 企画部 企画課 事業評価係

電話 06-6942-1141

FAX 06-6942-7463

(再評価)

## 【河川事業】

事業名	「対応方針(原案)」案※	備考
紀の川総合水系環境整備事業	事業継続	
新宮川総合水系環境整備事業	事業継続	

※貴職の意見を踏まえ、近畿地方整備局事業評価監視委員会へ諮る対応方針(原案)を作成するためのものです。

## 【道路事業】

事業名	「対応方針(原案)」案※	備考
一般国道42号田辺西バイパス	事業継続	

※貴職の意見を踏まえ、近畿地方整備局事業評価監視委員会へ諮る対応方針(原案)を作成するためのものです。

## 【港湾事業】

事業名	「対応方針(原案)」案※	備考
日高港塩屋地区国際物流ターミナル整備事業	事業継続	

※貴職の意見を踏まえ、近畿地方整備局事業評価監視委員会へ諮る対応方針(原案)を作成するためのものです。



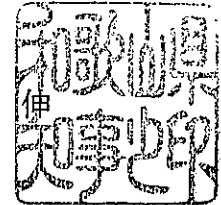


県総第 10040001 号

平成 29 年 10 月 19 日

近畿地方整備局長 様

和歌山県知事 仁坂 吉



近畿地方整備局事業評価監視委員会に諮る対応方針（原案）の  
作成に係る意見照会について（回答）

平成 29 年 10 月 4 日付け国近整企画 114 号で意見照会のあった標記につ  
いて、下記のとおり回答します。

#### 記

##### ○対応方針（原案）に対する意見について

###### ・紀の川総合水系環境整備事業

紀の川総合水系環境整備事業は、国（浄化事業）、県（底泥浚渫）、市（下水道整備）が一体となり進めている内川（和歌山市）の水質改善事業の一環であり、県と和歌山市のまちづくりにおける重要な事業であります。現在でも、大門川では BOD が環境基準値を上回っている状況であり、早急な水質改善のためにも対応方針（原案）のとおり事業継続が妥当と考えます。

事業実施にあたっては、より一層のコスト縮減等に努め、一日も早い完成をお願いします。

なお、大門川浄化用水導水の現在の計画を変更することについては、実施体制や費用負担、年間を通じた安定的な導水量の確保の観点から、十分検討頂いた上で、関係機関との調整を図っていただきますようお願いいたします。

###### ・新宮川総合水系環境整備事業

新宮川総合水系環境整備事業は、歴史と文化を育んできた新宮市のまちづくりに関わる重要な事業であり、対応方針（原案）のとおり事業継続が妥当と考えます。

なお、事業実施にあたっては、より一層のコスト縮減等に努め、一日も早い完成をお願いします。

- ・一般国道42号田辺西バイパス

国道42号田辺西バイパスは、近畿自動車道紀勢線南紀田辺ICへのアクセス道路としての機能を担うとともに、国道42号の渋滞緩和を目的とする道路であります。

また、国道42号の現道は南海トラフ巨大地震などによる津波で浸水することが想定されており、大規模地震への備えとしても重要な道路であることから、対応方針（原案）のとおり事業継続が妥当と考えます。

なお、事業実施にあたっては、より一層のコスト縮減等に努め、一日も早い供用をお願いします。

- ・日高港塩屋地区国際物流ターミナル整備事業

日高港塩屋地区国際物流ターミナル整備事業は、基幹産業の物流コストを削減するための大型船が入港できる環境の整備、クルーズ船寄港による賑わいの創出や入港船舶の安全性の向上が期待できる重要な事業であります。また、今後発生が予測される東海・東南海・南海3連動地震をはじめとする大規模地震や大型化する台風等の自然災害に対して地域の防災力強化も図られることから、対応方針（原案）のとおり事業継続が妥当と考えます。

なお、事業実施にあたっては、より一層のコスト縮減等に努め、一日も早い完成をお願いします。